



レズロック®錠を服用される方へ

監修: 神田 善伸 先生

自治医科大学 内科学講座血液学部門
教授

健康にアイデアを

meiji Meiji Seika ファルマ株式会社

レズロック®錠による治療を はじめるにあたって

レズロック®錠は慢性移植片対宿主病（慢性GVHD）の治療薬です。

この冊子では、慢性GVHDの患者さんが、レズロック®錠による治療を受ける際に、ご理解いただきたい薬の特徴や服用方法、注意点などをまとめています。

レズロック®錠による治療をはじめる前に、必ずお読みいただき、わからない点や不安に感じる事があれば、主治医や看護師、薬剤師に相談してください。

また、レズロック®錠による治療中に、体調の変化など、気になる事があれば、主治医や看護師、薬剤師に伝えてください。

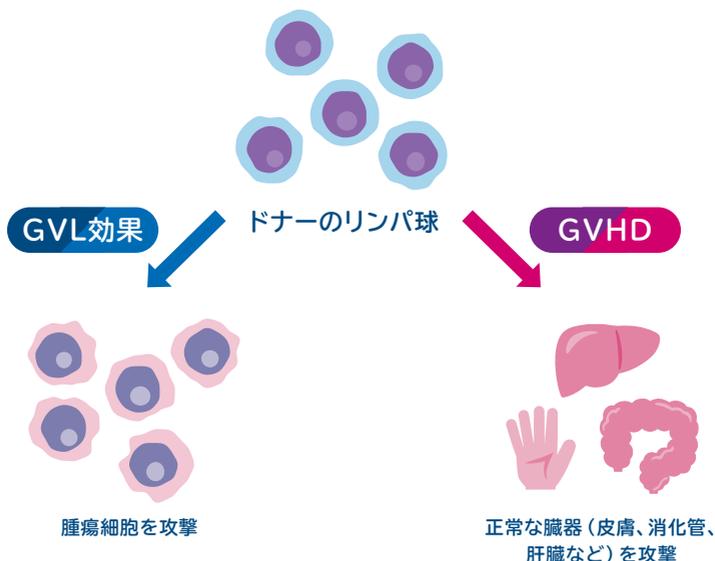
目次

移植片対宿主病（GVHD）とは？	4
慢性GVHDの症状	6
慢性GVHDの治療	7
レズロック®錠のはたらき	8
治療前の確認	9
レズロック®錠の服用方法・保管方法	10
レズロック®錠の副作用	11
慢性GVHDに対する日常生活の工夫・注意点	12
慢性GVHDに関する情報の入手先・相談窓口	14

移植片対宿主病 (GVHD) とは？

移植片対宿主病 (graft versus host disease: GVHD) は、骨髄移植などの同種造血幹細胞移植に特有の合併症で、移植したドナーさんの細胞 (移植片) に由来するリンパ球が、患者さん (宿主) の臓器を異物とみなして攻撃することによって起こります。

ドナーさんに由来するリンパ球が腫瘍細胞を攻撃してくれる効果 (GVL効果) も期待できるのですが、正常な細胞が攻撃を受けてしまうと、GVHDとして様々な臓器に障害があらわれます (図)。



国立がん研究センターがん情報サービス 造血幹細胞移植の副作用・合併症 (https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/HSCT/hsct03.html#anchor3) (2024年4月16日アクセス) より作図

- GVHDには、急性と慢性があります。

急性GVHDでは主に皮膚や肝臓、消化管に障害がおこり、発疹、黄疸、腹痛、下痢、吐き気・嘔吐、食欲不振などの症状があらわれます。

慢性GVHDでは、より多彩な臓器に影響が出ることがあり、皮膚、口腔粘膜、眼、肺、肝臓、筋肉、骨などに症状があらわれます（詳細は次頁）。

急性GVHDと慢性GVHDは、発症する時期や発症のメカニズムが異なると考えられており、治療方法も異なります。

- まずは、GVHDを予防するために、造血幹細胞移植時から、免疫抑制薬が使用されます。多くの場合、作用の異なる免疫抑制薬を組み合わせで使用します。

- GVHDを発症した場合には、免疫をさらに抑制する治療が行われますが、免疫抑制が強すぎると感染症をおこしやすくなったり、GVL効果が減弱したりするので、バランスよく管理して行うことが重要です。

一般的に、軽症の場合は、経過観察あるいは局所療法（皮膚症状に対する外用薬など）が行われます。

重症度が高い場合は、内服薬や点滴を用いた全身治療（ステロイドや免疫抑制薬など）が行われます。

慢性GVHDの症状

■ 皮膚・頭皮・爪

皮膚にかゆみのある発疹が出て、乾燥したり、硬くなったりします。皮膚の色が黒くなったり、色が抜けて白っぽくなったりすることもあります。髪の毛や体毛が抜けることもあります。また、正常な爪の成長がさまたげられ、爪が薄い、伸びない、小さい、欠ける、うねができるといった症状があらわれることがあります。



■ 口腔

唾液が出にくくなり、口腔内が乾燥（ドライマウス）し、粘膜障害や痛み、味覚障害がおこることがあります。痛みで食事や歯磨きをしにくくなることもあります。

■ 眼

涙が出にくくなり、目が乾燥（ドライアイ）することがあります。その他、充血や目の痛みなどの症状があらわれることもあります。



■ 消化器

食べ物を飲み込みにくくなったり、吐き気や嘔吐、下痢がおこりやすくなったりします。

■ 肺

喘息のような呼吸（呼吸するときに「ゼーゼー」「ヒューヒュー」というような音がする）になったり、労作時に息切れがしやすくなったりします。

■ 関節・筋・骨

筋膜が固くなることで、関節の曲げ伸ばしが難しくなったり、筋肉の炎症で力が入りにくくなったりすることがあります。

■ 生殖器

できものができたり、かゆみや痛み、排尿障害、性交障害がおこったりすることがあります。



慢性GVHDの治療

慢性GVHDの治療は、一人ひとりの患者さんの重症度や再発、感染症などのリスクを考慮して行われます。

軽症の場合は、皮膚に対して外用薬（塗り薬）、眼に対して点眼薬（目薬）などのように、部位ごとに局所療法を行います。

中等症～重症の場合は、内服薬や点滴を用いた全身治療を行います。

全身治療では、最初にステロイド内服を中心とする一次治療が行われます。感染症や骨密度の低下などの副作用に注意しながら治療を進めます。

一次治療で効果不十分と判断されると、二次治療が行われます。ステロイドがある程度奏効していたとしても、減量すると再燃する様な場合は、ステロイド長期投与による副作用を懸念して二次治療に進めることもあります。二次治療としては、近年、過剰な免疫細胞に作用する薬（BTK阻害薬、JAK阻害薬、ROCK2阻害薬）が使用できるようになり、患者さんの状況に応じて選択されます。

軽症

支持療法・局所療法



中等症～重症

全身治療
(一次治療→二次治療)



レズロック[®]錠のはたらき

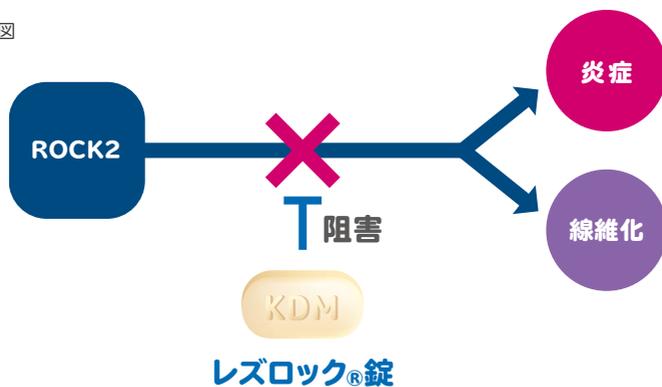
慢性GVHDでは、

- ① ドナー由来の免疫細胞の過剰な活性化と、それを制御する役割をもつ免疫細胞の減少によっておこる“炎症”
- ② 組織の“線維化”（固くなり、こわばること）

という2つの状態がおこっていると考えられています。

レズロック[®]錠は、免疫細胞の分化や、組織の線維化にかかわっているROCK2という酵素のはたらきを阻害することにより、免疫細胞のバランスを調整し（免疫調整作用）、線維化を抑制する（抗線維化作用）ことで、慢性GVHDに効果を発揮すると考えられています。

イメージ図



■ レズロック[®]錠による治療の対象となるのは？

レズロック[®]錠による治療の対象となるのは、ステロイドによる治療を受け、効果が不十分な慢性GVHD患者さんです。

治療前の確認

下記に該当する方はレスロック[®]錠を服用することができません。

- レズロック[®]錠の成分に対して、過敏症をおこしたことがある方
- 妊娠している、または妊娠している可能性のある方

また、下記のような場合は、レスロック[®]錠の服用にあたり注意が必要です。
必ず主治医や看護師、薬剤師に伝えてください。

- 感染症を合併している場合
- 重度の肝機能障害がある場合
- 妊娠する可能性のある場合
- パートナーが妊娠する可能性のある場合
- 授乳中の場合
- 下記の薬を服用中の場合
 - 結核の薬：リファンピシシ等
 - てんかんの薬：フェニトイン、カルバマゼピン、プリミドン等
 - HIV感染症/エイズの薬：エファビレンツ、エトラビルン等
 - 胃酸を抑える薬：ラベプラゾール、オメプラゾール、エソメプラゾール等
 - 血中のコレステロール値を下げる薬：ロスバスタチン、アトルバスタチン等
 - 血液をサラサラにする薬：ダビガトランエテキシラート等
 - 免疫抑制薬：シクロスポリン、タクロリムス、シロリムス等
- セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）を含む健康食品・サプリメントを摂取している場合

レズロック[®]錠の服用方法・保管方法

■ 服用方法

レズロック[®]錠は1日1回1錠を食後に服用します。患者さんの状態によって、お薬の量を増やすことがあります。医師に指示された量を服用するようにしてください。ご自身の判断で服用を中止したり、服用量や服用回数を変えたりしないでください。

レズロック[®]錠を服用する際は、十分な量（コップ一杯程度）の水またはぬるま湯と一緒に服用してください。噛み砕いたりせずにそのまま服用してください。



■ 飲み忘れた場合

その日に飲み忘れに気づいた場合は、すぐに服用してください。次の日に飲み忘れに気づいた場合は、飲み忘れた分を余計に服用することはせずに、その日の分だけを飲んでください。

■ あやまって多く飲んでしまった場合

すぐに主治医や看護師、薬剤師に相談してください。

■ 保管方法

湿気を避けて室温で保管してください。小児の手の届かないところに保管してください。

レズロック[®]錠の副作用

■ 特に注意が必要な副作用

感染症

肺炎や带状疱疹などの感染症を生じることがあります。

肺炎

発熱や咳、痰、息切れ、息苦しいといった症状があらわれます。

带状疱疹

皮膚の一部に、ズキズキ、チクチク、針で刺されたような痛みや、赤い発疹や水疱があらわれます。頭痛や腹痛が最初の症状になることもあります。



■ その他に注意が必要な副作用



頭痛

下痢

悪心

吐き気

嘔吐

筋痙縮

筋肉がびくつく、筋肉がこわばる・つっぱる

疲労

食欲減退

浮腫

体がむくむ等

このような症状、あるいは、上記以外でも気になる症状がでたら、主治医や看護師、薬剤師にご連絡ください。

慢性GVHDに対する日常生活の工夫・注意点 ●

慢性GVHDに対しては、全身に対する薬物治療のほかにも、症状や部位ごとの治療・ケアも行われます。主治医や看護師と相談して、日常生活に取り入れましょう。

■ 皮膚

皮膚がもろくなっているため、直射日光や外的な刺激をなるべく避けるようにしましょう。

皮膚を保護するために、日焼け止めを使う、帽子や長袖、長ズボンなどで露出を防ぐ、保湿剤を使うなどの工夫をしましょう。

皮膚を保護するため、また感染症を防ぐためには、皮膚を清潔に保つ必要があり、毎日のシャワーやお風呂が重要です。熱すぎない温度で優しく洗うようにしましょう。

ステロイドの外用剤（塗り薬）を使う場合があります。主治医や薬剤師の指示にしたがってください。



■ 爪

ハンドクリームやオイルを使ってマッサージするなど、保湿を心がけましょう。ひび割れでひっかかるときはコート剤で爪を保護しましょう。

■ 口腔

感染症対策のためにも、口の中の清潔さとうるおいを保つようにしましょう。刺激を避け、やわらかい歯ブラシを使う、保湿剤を使うなどの工夫を心がけましょう。定期的に歯科医の診察を受けることも重要です。

■ 眼

眼が乾く、ゴロゴロする、視界がぼやける、まぶしい、痛むといった症状があれば、眼科医の診察を受けましょう。

点眼薬（目薬）や涙の排出を抑える涙点プラグ、治療用コンタクトレンズを使うことがあります。また、眼の乾燥を防ぐために、メガネやドライアイ用ゴーグルが有効な場合があります。



■ 消化器

栄養バランスの取れた食事を心がけ、アルコールや刺激の強い食事は避けるようにしましょう。下痢がおきたときには水分を取るようにしましょう。

■ 肺

肺にGVHDがあらわれると、呼吸障害で生活に支障をきたしたり、悪化すると命にかかわったりすることがあります。

咳や息苦しさ、息切れなどがある場合は、早めに受診するようにしましょう。

■ 感染症対策

手洗い、うがいの習慣をつけましょう。外出の際にはマスクを着用することも効果的です。

慢性GVHDではその他にも肝臓、関節・筋・骨、生殖器などに症状があらわれることがあります。造血幹細胞移植のその他の合併症に関する注意点とあわせて、次頁などから情報を得るようにしてください。

慢性GVHDに関する情報の入手先・相談窓口

慢性GVHDに関する情報は、下記のウェブサイトで入手することができます。

- 国立がん研究センターがん情報サービス
<https://ganjoho.jp>
- 一般社団法人日本造血・免疫細胞療学会
患者さん・ドナーさん・一般の方へ
<https://www.jstct.or.jp/modules/patient/index.php>

治療費含め、がんに関する様々な相談は、全国の「がん診療連携拠点病院」に設置されている「がん相談支援センター」で行うことが可能です。どなたでも無料・匿名で利用できます。

- 上記の「国立がん研究センターがん情報サービス」にて全国の「がん相談支援センター」を探することができます。
- 最寄りの「がん相談支援センター」がわからない場合は下記から電話でお問い合わせができます。

「国立がん研究センター がん情報サービスサポートセンター」

電話番号 0570-02-3410 (ナビダイヤル) / 03-6706-7797

受付時間 平日10時～15時 ※土日祝日、年末年始を除く。

Memo



A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page below the header.

医療機関名

連絡先